



## 西区地域部会の 広報紙が変わりました

広島市障害者自立支援協議会西区地域部会広報紙は今号から「たがやす」いう名前になりました。

「たがやす」には、ちいきを耕し、こころを耕していきたいという私たちの気持ちがこめられています。

## みんなが笑顔で安心して暮らせる地域づくりへ

西区地域部会では障害のある人も、ない人も分け隔てない、共に支え合う地域づくり「共生社会の実現」を目的としています。

記念すべき(?)特集は、木村泉さんの生活を紹介します。木村さんは、「サービス等利用計画」に基づいた障害福祉サービスを利用しながら、地域で暮らしています。

この機会に、「共生社会」について身近なこととして考えていただければと思います。

### 木村さん の ある一日

7:30 起床

8:00 朝食

9:30

夢トピアを出発  
(送迎バス)

10:00

第2もみじ作業所  
仕事(さをり織り、  
パソコン)

(12:00 昼  
食)

仕事(さをり織り、  
パソコン)

15:50

夢トピアに帰宅  
(送迎バス)  
コーヒータイム  
フリータイム

18:30 夕食

フリータイム

20:30 入浴

フリータイム

22:00 就寝



夢トピアの仲間と一緒に♪

### 障害福祉サービス Q&A

#### Q サービス等利用計画とは?

A 障害福祉サービスを利用するときに必要な書類です。

これからの暮らしのことや福祉サービスをどうやって利用していくかをまとめた計画書のことです。相談支援専門員と一緒に作ります。

## 障害に合わせて自分らしく過ごせる工夫

脳性まひによる重度の身体障害がある木村さんは、西区観音新町のグループホーム「夢トピア」で暮らしています。

夢トピアは開所して12年です。木村さんも実現のため、広島市との土地の貸与の交渉や資金集めなどに取り組みました。

仕事を終えて戻ったら、まずは缶コーヒーで一息つくことが日課になっている木村さん。パソコンをしたり、仲間の居室に遊びに行ったり、職員に冗談を言ったりして過ごしています。グループホームでは必要な介助は生活支援員が行います。居室は障害に合わせて、趣味など好きな時間が過ごせるように改装されています。



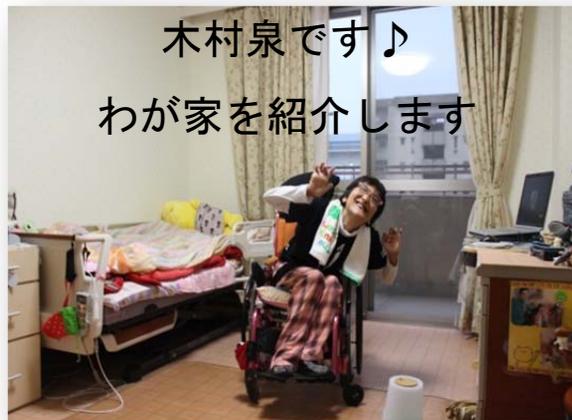
趣味はパソコンです



木村泉さん

夢トピアには、3年前の11月から入居しています。それまでも、定期的にショートステイの利用をしていました。入居することにしたのは、母の体力の低下や自宅の狭さもあって、親子で息抜きをすることも必要だと考えたからです。母の安心と自由に使える居室を確保できたことは、私たち親子に関わってくださった皆さんのお蔭だと思って、感謝しています。

### 木村泉です♪ わが家を紹介します



木村さんは人気者です。仲間たちが今日の出来事や悩みを木村さんに話しに行ったりしています。



グループホーム  
主任 吉村さん



車椅子から移乗しやすいように、手すりの高さを木村さんに合わせています

### Q グループホームとは?

A 夜間や休みの日に生活を送るためのお手伝いが必要な人が、生活支援員や世話人の支援を受けながら、仲間と一緒に暮らすサービスです。

# 働く誇りと喜び

第2もみじ作業所に通い、さをり・縫製グループに13人の仲間と所属しています。作業所は開所してから30年を超えていますが、木村さんは当初からのメンバーです。さをりは出来上がってみないと分からないようなところもありますが、全体の完成をイメージしながら進める根気のいる作業です。



さをりを織ってます♪

木村さんは、さをり織りにプライドを持って取り組んでいますね。職員が忙しい時には代わって他の仲間に声をかけてくれます。頼りになるお姉さんの存在ですよ。



第2もみじ作業所  
生活支援員 佐藤さん



生活支援員の佐藤さん  
からも頼りにされてます

# 週3日の家族だんらんのひととき

普段は「夢トピア」で暮らしていますが、週3日は自宅に帰って過ごしています。家族は、母の裕巳さん(80)と猫のうすずみです。食事は、やはりお母さんの作ってくれるものおいしいとのことです。帰宅した時には、大好きなお刺身が出ることも多く、おすそわけがある猫のうすずみも喜んでいきます。起床、食事全般、排泄、外出時の移動などの介助は複数の訪問介護事業所の「重度訪問介護」による支援が行われています。



お母さんとヘルパーさんとの朝のひととき



うすずみだニャー(=^・^=)



玄関にはスロープを  
設置しています

## Q 重度訪問介護とは

A ヘルパーが長い時間、身体介護や家事援助だけでなく、外出時の付き添いもお手伝いするサービスです。

木村さんは多くの人たちに囲まれて笑顔で暮らしています。以前には、木村さんがたまたま帰宅した際に、母が脳梗塞を発症し、早く発見できたというようなこともあったそうです。今では、後遺症も少なく、元気に木村さんのお世話や茶道教室の先生もされています。どんな状況になっても、誰もが、安心した生活を送れるような地域づくりをしていきたいですね。

自分をしっかり持っている方です。言語障害があり、聞き取りにくい時もありますが、木村さんの言葉に耳を傾け、楽しく訪問させてもらってます。



悠悠タウン江波  
ヘルパー 宮廻さん

# 今号のたがやしびと



タイトルに合わせて  
たがやすのポーズをとる

切戸さん(左)、橋本さん(中央)、日本松さん(右)

今号から、西区地域部会の取り組みをお手伝いしてくれる人や地域で活躍している人を「たがやしびと」として紹介します。

今号のたがやしびとは、広報紙「たがやす」のロゴマークをデザインしてくれた安田女子大学家政学部生活デザイン学科3年生の橋本まゆきさん、日本松佐佳さん、切戸亜紀さんです。

大学では、デザイン、製図を学んでいます。3人の将来の夢は、橋本さんは建築関係の仕事、日本松さんは商品開発・企画の仕事、切戸さんはインテリア・住宅関係の仕事についてみたいそうです。

「一から自分たちでデザインを考えて、ロゴマークをつくるのは初めてでした。『たがやす』という言葉からイメージしてデザインを考えました。いくつものパターンを作って提案することが、社会に出た時にとっても役に立つと思いました。」

ステキなロゴマーク  
ありがとうございました  
大切にに使わせてもらいます